



ITCA 社団法人 情報通信設備協会

情報通信設備

IT社会に貢献する(社)情報通信設備協会のコミュニケーション誌

CONTENTS

FM Cビジネスモデル研究と実践特集

(社)情報通信設備協会は、会員の新たな事業への参加機会の拡大を行うためにビジネスモデルの研究を行ってまいりました。

この度、ソフトバンクグループと提携するMVNO方式による「FM C事業モデル」を策定し、会員有志による事業会社を設立いたしましたので、その取組みについて解説いたします。

本事業は、広く一般ユーザーに門戸を開放したMVNO方式のFM C事業としては、日本の通信史上ほぼ最初のケースと考えられ、情報通信設備業界の新たな試みとして期待されています。

是非ご一読ください。

No. 9 2008年3月

FMCビジネスモデルの策定と事業内容のご紹介

NGN調査委員会委員長
ワイヤレスシティズ推進専門委員会委員長
吉本幸男

目次

はじめに	2
1. FMCビジネスモデル開発の経緯.....	2
2. NGN調査委員会の提言内容.....	3
3. FMC事業を行う事業会社、㈱ブイトゥーエスの誕生	8
4. ㈱ブイトゥーエスの概要	8
5. ㈱ブイトゥーエスの現状	9
6. ㈱ブイトゥーエスのサービス概要.....	9
おわりに	16

はじめに

(社)情報通信設備協会は、会員の新たな事業への参加機会の拡大を行うためにビジネスモデルの研究を行ってまいりました。

平成 18 年度第 4 回理事会(平成 19 年 1 月 26 日)において、ソフトバンクグループと提携する MVNO 方式(注 1 参照、)による「FMC 事業」(注 2 参照)の調査企画を行う企画会社の設立を承認し、十分事業として成立することの確認を行った上で、事業会社を設立いたしました。

本事業は、広く一般ユーザーに門戸を開放した MVNO 方式の FMC 事業としては、日本の通信史上ほぼ最初のケースと考えられ、通信業界の新たな試みとして期待されています。

また、本サービスは PBX/ビジネスフォンの機能を活用することで固定と携帯にまたがる新たなコミュニケーション手段をお客様にご提案するものであり、正に ITCA 会員各社の腕の見せ所と呼べるものです。

今号は、FMC ビジネスモデルの開発経緯、ネットワークシステム概要、ビジネススキームなど解説するとともに、事業会社のサービス概要についてご紹介いたします。

(注 1) MVNO【仮想移動体サービス事業者】: Mobile Virtual Network Operator

携帯電話などの無線通信インフラを他社から借り受けてサービスを提供する事業者。無線通信サービスの免許を受けられるのは国ごとに 3~4 社程度しかないが、免許を受けた事業者の設備を利用することで、免許のない事業者も無線通信サービスを提供することが可能。

(注 2) FMC【固定と移動との融合】: Fixed and Mobile Convergence

携帯電話を企業の内線電話として利用するといったような、移動体通信と有線通信を融合した通信サービスの形態。携帯電話で固定電話の安い通話料金を享受したり、社内外どこにいても一台の携帯電話で連絡がつくようになるなどのメリットがある。

1. FMC ビジネスモデル開発の経緯

平成 16 年 4 月 8 日、第 27 回 IP 研究会(NGN 調査委員会の前身)において IP セン트レックスを活用した FMC 事業の調査研究を行うことを決定しました。

以来 27 回の委員会を重ねビジネスモデルの策定を行い、平成 19 年 1 月 26 日、平成 18 年度第 4 回理事会において、ソフトバンクモバイル(株)との機密保持契約を締結するため及び FMC 事業・ワイヤレス事業のフィージビリティを行う企画会社「ICT 総合企画(株)」の設立を承認し、今後の事業化については協会三役会に一任することを決定いたしました。

企画会社「ICT 総合企画(株)」は、ソフトバンクモバイル(株)と提携して行う FMC 事業は十分事業として成立することの確認を行った上で、協会会員有志による事業会社「株式会社ブイトオーエス」が設立されました。

これらの経緯は次表とおりです。

(表：FMC事業化のこれまでの協会の取組み)

平成 16 年 4 月 8 日	第 27 回 I P 研究会 (N G N 調査委員会の前身) において I P セン トレックスを活用した F M C 事業の調査研究を行うことを決定
平成 17 年 8 月 29 日	平成 17 年度第 2 回業務委員会と第 35 回 I P 研究会の合同会議にお いて M V N O 方式による F M C 事業の検討を行う。
平成 17 年 11 月 16 日	平成 17 年度第 2 回理事会において I P 研究会を常設委員会の N G N 調査委員会に決定するとともに F M C 事業化検討を開始するこ とを承認。 以後、携帯キャリアと条件等折衝を開始。
平成 18 年 9 月 28 日	N G N 調査委員会、 I T C A 事業推進部会 (本部業務委員会の部 会)、次世代地域ブロードバンド推進委員会 (関東) は、 F M C 及 びワイヤレスブロードバンドの事業化の検討を開始するため第 1 回ワイヤレスシティズ推進合同会議を開催。
平成 18 年 11 月 16 日	平成 18 年度第 3 回理事会において上記合同会議を本部の専門委員 会「ワイヤレスシティズ推進専門委員会」とすることを承認。 また、ソフトバンクモバイル (株) との機密保持契約締結を承認。
平成 19 年 1 月 26 日	平成 18 年度第 4 回理事会において、ソフトバンクモバイル (株) との機密保持契約を締結するため及び F M C 事業・ワイヤレス事業 を企画調査するための企画会社「 I C T 総合企画 (株) 」設立を承 認。また、今後の事業化については協会三役会に一任を決定。
平成 19 年 6 月 15 日	協会三役会とワイヤレスシティズ推進専門委員会との合同会議に より、企画会社「 I C T 総合企画 (株) 」は解散し、新たに事業会 社を設立することを決定。
(注 1) F M C 事業会社は、平成 19 年 8 月 3 日に設立登記 (平成 19 年 6 月 19 日、平成 19 年度第 1 回理事会に上記決定を報告。)	
(注 2) 「 I C T 総合企画 (株) 」は平成 19 年 10 月 26 日清算。	

2 . N G N 調査委員会の提言内容

平成 18 年度第 4 回理事会において、ソフトバンクモバイル (株) との機密保持契約を締結するため及び F M C 事業・ワイヤレス事業を企画調査するための企画会社「 I C T 総合企画 (株) 」設立を提案し、承認された。また、今後の事業化については協会三役会に一任が決定された。

以下は理事会に提案した内容。

収益事業目的の企画会社の設立について

平成19年1月26日

ワイヤレスシティズ推進専門委員会

1

1. 協会と会員をとりまく環境、課題

■協会

* 公益法人改革

- ・ これまでと同じ協会の体制を維持するためには、公益事業の一層の充実が求められている。
- ・ 公益事業と収益事業のバランスに配慮することが求められる。(内部留保など)

* インキュベーター的役割の強化充実

- ・ 新技術、新サービス動向の調査、研究、検証など中小の会員、企業が単独でできにくい業務について先導的に実施する役割を強化充実させることが必要。
- ・ 新規事業を行しやすい環境整備。

■会員

* 通信のIP化による市場変化への対応

通信のIP化に伴い電話がデータ通信の中の一つのアプリケーションと化しており、ブロードバンドと共にIP電話が普及、PBX市場の縮小と共にPBXディーラ企業の存続を掛けた新規ビジネスが求められている。

* 通信設備の有線から無線への変化

通信設備は、モバイル・無線LANなどの普及により、工事量、保守料金の激減をきたしている。今後無線行政の規制緩和により更にこの傾向は加速する。会員は、無線を活用した新しい事業への転換が必須である。

* 携帯と固定電話の融合(FMCサービスの実現)

携帯電話が普及し、ワンナンバーによる固定・携帯間のシームレスなサービスが注目を集めており、利便性向上・コスト削減に繋がる真のFMCを実現するサービス事業への進出のチャンスが拡大している。

2. 協会の新規事業開発

■NGN調査委員会

FMC事業化検討

平成17年度第2回理事会(17.11.16)
 ・IP研究会をNGN調査委員会(常設委員会)に変更。

平成17年度第3回理事会(18.03.16)
 ・市場動向など調査活動報告。

平成18年度第1回理事会(18.06.16)
 (事業のあり方として例示として報告)

・IP電話サービスを行う「ISP」を設立。
 ・「SPC」(Special Purpose Company)を設立。

平成18年度第3回理事会(18.11.16)
 ・ソフトバンクグループ、シスコ社との提携及び
 機密保持契約の具体的推進の承認

■ワイヤレスシティズ推進専門委員会

地域ワイヤレスブロードバンド整備への取組み

平成18年度第3回理事会(18.11.16)
 ・自治体へのワイヤレスブロードバンド化の調査業務実施承認(地方本部、会員を拘束しない取組み)

■業務委員会

地域ワイヤレスブロードバンド整備への取組み

平成18年度第1回業務委員会(18.12.6)
 ・地方本部のモバイル事業に対する収益構造の確立を要求され、本部上記関係委員会は具体的活動を示すこととしている。

3

3. 収益事業を行う企画会社の必要性

■FMC事業

■地域ワイヤレスブロードバンド整備事業

協会事業として限界

利益追求事業の困難性
 初期投資の経費捻出の困難性
 将来的に公益法人としての適格性

FMC事業 + 地域ワイヤレスブロードバンド整備事業の検証

理事会で審議いただきたい事項

企画会社設立(第1ステップ)
 機密保持契約(ソフトバンクグループ、シスコ社)
 料金、インセンティブ、NW、機器等の条件交渉
 団体との契約は不可
 マーケティング 事業計画など検討し可否判断

事業会社設立(第2ステップ)
 FMC事業+地域ワイヤレスBB整備事業
 事業実施賛同者の募集 など

継続課題
 ソフトバンクG以外のキャリアとの提携検討
 シスコ社CMに匹敵するハードを期待

4

4. 事業コンセプト

理念

ITCA会員のITCA会員によるITCA会員のための新規ビジネスの創造。

ビジョン

- 1) MVNOによるFMCサービスを日本の通信史上最初に始め、早期にユーザを囲い込むことで通信業界の新たな勢力としての地位を確立する。
- 2) ITCA会員ユーザにFMCサービスを提供することで、通信のIP化後も永続的に現状以上のランニング収入を会員に対して創出する。
- 3) 地域ワイヤレスブロードバンド整備事業は、総務省に協力する事業であり公益事業として協会にふさわしい事業である。また、本事業をきっかけに都市型メッシュ無線LAN事業として新たなビジネスチャンスを生み出す。

目標

- 1) FMC事業は平成19年6月までにサービスの開始し、平成21年5月末までに携帯電話100万ユーザ、光回線10万回線の獲得。
- 2) 地域ワイヤレスブロードバンド整備事業は、実証実験及び自治体への導入を推進。

5

5. 企画会社の概要

第1ステップ: FMC事業、地域ワイヤレスBB整備事業を行う企画会社概要

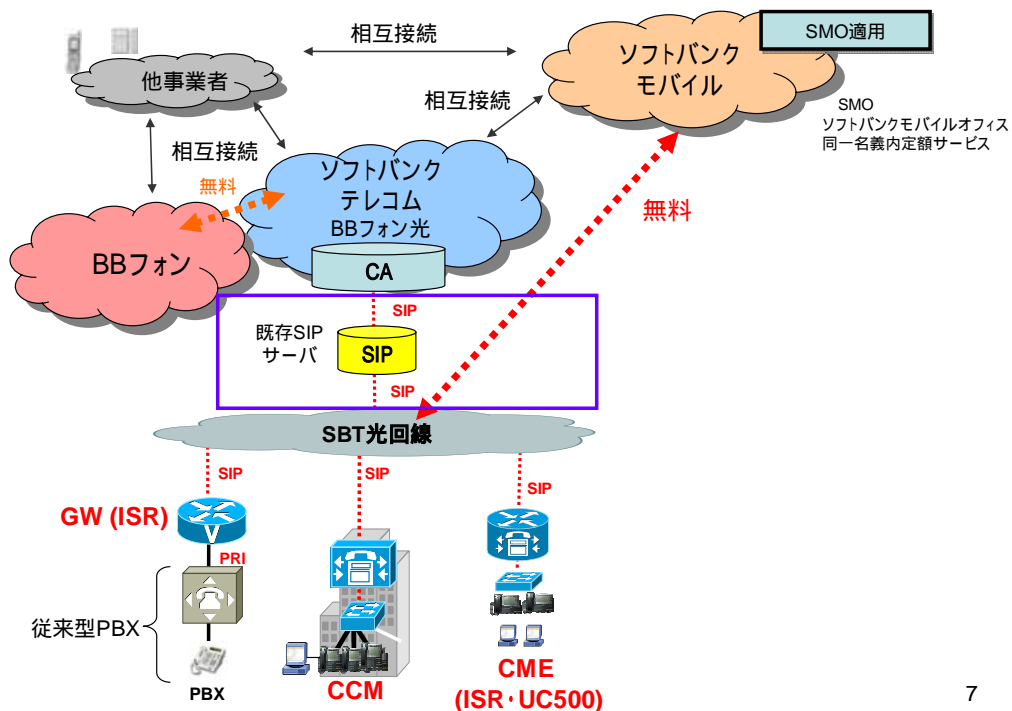
- ・資本金(1000万円): 出資者募集か協会貸付など
- ・ソフトバンクグループ(SBN社、SBT社)、シスコ社との機密保持契約
- ・マーケティング: FMC事業賛同会社の調査
: 地域ワイヤレス整備事業は、各地方本部支援事業
(コンサルタント、入札支援など)
- ・事業計画の策定(収支計画、インセンティブ、キャッシュフロー等の検討)
- ・通信事業の届出
- ・実施時期: 平成19年2月末

第2ステップ: 事業会社の概要

- ・協会会員有志出資の事業会社を設立し、FMCはMVNOを事業を展開、地域ワイヤレス事業は自治体BB整備事業と都市型無線LANを推進。
- ・出資と事業(事業を行う会員は出資を原則とする)
- ・事業会社設立: 平成19年3月末
- ・事業構成(FMC事業)
 - ネットワーク - ソフトバンクモバイル社、ソフトバンクテレコム社
 - 端末機器 - シスコ社と他メーカー
 - 営業、販売、顧客対応 - FMC事業会社

6

6. ネットワーク構成 (ソフトバンクグループの活用)



7. FMCサービス内容(1) (ユーザへの訴求力)

以下のサービスが実現される!!!

- 現在の電話番号をそのまま利用してサービス移行が可能。
- 携帯電話間の通話は無料。
- 事務所から社員の携帯電話への通話は無料。
- 携帯電話から事務所への通話は無料。
- 事務所に掛かってきた電話の携帯への転送が無料で可能。
- 事務所からBBフォン(450万加入)への電話が無料。
- インターネットへは高速光回線にてアクセス。
- 今後アプリケーションと連動したソリューションへとビジネス拡大可能!

3. FMC事業を行う事業会社、㈱ブイトゥーエスの誕生

平成19年度第1回理事会(平成19年6月19日)において、FMC事業の事業化について三役会、ワイヤレスシティズ推進専門委員会、企画会社において意思決定した次の事項の報告を行い、いよいよ事業会社設立の準備が開始された。

企画会社と事業会社について

- ・企画会社は平成19年7月末を目途に解散し、新たに事業会社を設立する。
- ・ただし、企画会社は事業会社が軌道に乗るまでは当初の責任と役割を果たすこととする。
- ・なお、企画会社株主に対しては、解散理由、事業会社設立趣旨等について十分説明しご理解を得ることとする。

事業会社の形態について

- ・事業会社が決定することとする。

事業会社の執行体制について

- ・事業会社の会長には藤田理事長が代表権を持たない会長として就任し、その他常勤役員はワイヤレスシティズ推進専門委員会を中心にして人選を行うこととする。

事業への参加、出資金について

- ・事業への参加方法、出資金額等は設立する事業会社が決定することとする。
- ・事業会社は8月に設立することとし、7月上旬までに目論見書、ビジネスプラン等会員向け説明資料を作成する。

事業会社は協会との関係を維持するために、賛助会員として入会し応分の会費の支払をいただくこととする。

4. ㈱ブイトゥーエスの概要

FMC事業を行う事業会社の概要は次のとおり。

設立	平成19年8月3日
商号	株式会社 ブイトゥーエス 「Voice to solution」の略
ドメイン	v2s.co.jp v2s.jp
所在地	東京都中央区新川1-4-8
目的	固定電話および携帯電話等の通信事業 通信・ネットワーク機器の販売 業務アプリケーションおよびそのサービスの開発・販売 ネットワークに関連するサービスの開発・販売
公告方法	官報
資本の額	1000万円(設立時、現在増資中)
発行する株式の総数	800株
設立時発行株式総数	200株
発行価額	5万円
営業年度	6月末

総会	年 1 回
払込取扱金融機関	三井住友銀行 日本橋東支店
発起人	錦織一裕、藤田孝雄、大平昭夫、長田修一郎
取締役	錦織一裕、藤田孝雄、小西哲二
代表取締役	錦織一裕
監査役	長田修一郎

5. (株)ブイトゥーエスの現状

(株)ブイトゥーエスは(社)情報通信設備協会の会員に向けた説明会を協会の協力の下に精力的に展開しました。

事業説明会：

9月13日の甲府での第1回目の事業説明会を皮切りに全国17か所で19回に渡り、事業説明会を実施しました。(9/13 山梨、9/18 九州、9/19 東京、9/20 東京、9/21 茨城、9/26 北関東、9/27 神奈川、9/28 東海、10/2 関西、10/3 四国、10/4 静岡、10/4 中国、10/12 北海道、10/15 東北、10/16 北陸、11/2 仙台、11/2 盛岡、11/27 新潟、長野)

代理店勉強会：

事業説明会に引き続き、代理店加盟に手を上げて頂いた会員向けに本サービスおよび代理店業務の勉強会を10月2日皮切りに実施中。積極展開を表明頂いている代理店様には個別の勉強会も実施しております。(10/2 東京、10/5 九州、10/15 関西、10/16 高松、10/17 松山、10/17 東京、10/22 名古屋、10/23 つうけんテクノ(札幌)、10/24 東京、10/24 静岡、10/26 九州日立ソリューション、10/29 沖縄、10/30 協和テクノロジズ(東京)、10/31 東京、11/5 西通・九州電話サービス、11/8 北信テレネック、11/12 甲府、以上全国17か所で実施済み。)

ソフトバンク社との交渉状況：

取引条件の詰め交渉を行い10月25日に契約の最終調印をいたしました。(締結日はテレコムとは10/1付、モバイルとは10/15付)特にソフトバンクモバイル社としてもMVNOという全く新規の取り組みであり、具体的なオペレーションの確立のための協議に時間が掛りましたが、当社負担を最小限に抑えた運用が確立されました。

今後、代理店数の確保及び代理店様への拡販教育が急務となっております。

6. (株)ブイトゥーエスのサービス概要

(株)ブイトゥーエスのサービスは単に通話料を安くすること提案することだけでなく、PBX、ビジネスフォンの機能を最大限生かして企業の業務効率化に寄与することを基本としてサービスメニューを提示しています。

具体的な提案内容のサンプルは次のとおりです。

株式会社 御中

プレミアムオフィスライン(POL)

貴社の携帯電話が内線電話になります！
追加ランニングコスト不要

2007年 月 日

XXXXXX株式会社
(社団法人情報通信設備協会会員)

ご質問

あなたの会社は、社員に会社の携帯電話を持たせていますか？

個人の携帯を業務に使わせていませんか？

業務に使われる携帯電話は、貴社や、貴社社員、取引先様の会社電話番号、携帯電話番号、メールアドレス等々、企業にとって非常に大切な情報が詰まった情報端末です。つまり、携帯電話の会社支給は企業防衛の第一歩と言えます。

ご提案

POLは今お使いのPBX/ビジネスフォンと連動させることで企業の携帯電話の使い方を根本から変える革命的なソリューションです。

また、通信コスト全体の削減が見込めます。

この機会に社員携帯の本格導入をご検討ください。

弊社はPBXの機能を使い、会社と社員携帯を繋ぐベストソリューションをご提案します。

- 内線電話を回すだけで、通話料フリーで自席に不在の社員の携帯を呼出します。
- お客様からの電話を、通話料フリーで社員の携帯に繋がります。
- 外出中の社員が携帯電話から、通話料フリーで社内に電話がかけられます。
- 社員同士が通話料フリーで携帯電話で会話できます。

注:通話料が掛らないのは1:00-21:00の時間帯です。

プレミアムオフィスライン(POL)とは？

プレミアムオフィスライン(POL)とは、

V2S社(MVNO)が提供する携帯電話サービス:

Wホワイト +オフィス定額

ソフトバンクモバイル社のホワイトプランWホワイトオプションと同様の料金プラン。更にオフィス定額により1:00am ~ 21:00pmの時間帯で全てのおとくライン回線にかける電話が無料となる法人向け相対割引プラン。

(株式会社ブイトゥーエスは情報通信設備協会が研究したビジネスモデルを事業化するために設立された通信事業会社です。携帯サービス自身はソフトバンク社のサービスになります。)

ソフトバンクテレコム社が提供する直収固定電話サービス:

おとくライン +SBモバイル定額

通常のおとくライン一律料金プランに、SBモバイル定額オプションを申し込むことにより、1:00am ~ 21:00pmの時間帯で全てのソフトバンク携帯にかける電話が無料となる法人向け相対割引プラン。

この二つのサービスを同時に申し込むことで、固定電話と携帯電話の双方間の通話を午前1時から午後9時まで無料でご提供する電話サービスです。

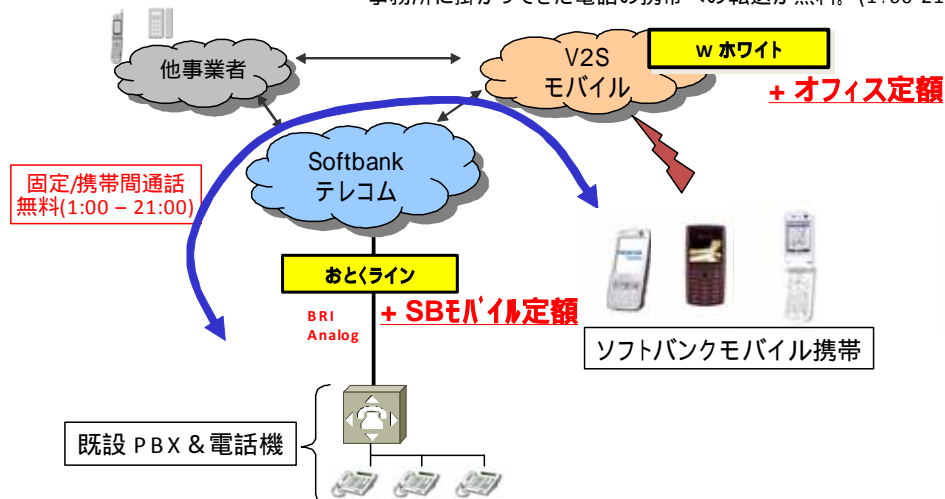
5

プレミアムオフィスライン(POL)とは？

おとくライン(SBテレコム)とWホワイト(V2S)を同時にお申込で！

おとくライン(固定)と
Wホワイト(携帯)を
繋ぐ新サービス

- * 現在の固定電話番号をそのまま利用してサービス移行が可能。
- * 携帯電話間の通話は無料。(1:00-21:00)
- * おとくラインからソフトバンク携帯への通話は無料。(1:00-21:00)
- * 携帯電話からおとくラインへの通話は無料。(1:00-21:00)
- * 事務所に掛かってきた電話の携帯への転送が無料。(1:00-21:00)



6

プレミアムオフィスラインを法人様が100%使いこなすためにはPBX(ビジネスフォン)の機能と連動させることが不可欠です。

次ページ以降に詳細をご説明いたします。

POLで会社から社員携帯に無料で通話！

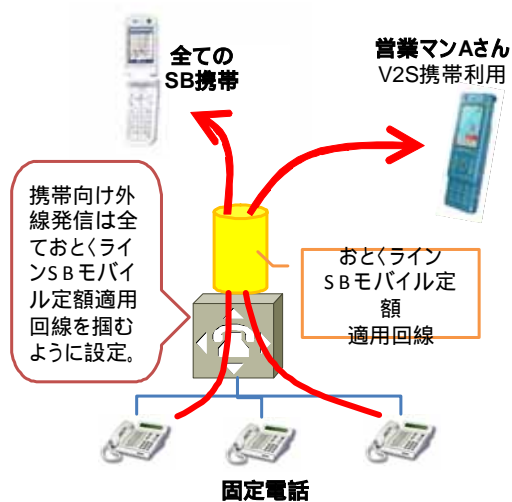
会社の電話から全てのソフトバンク携帯にかける電話が無料になります！(1:00-21:00)

会社から携帯番号にかける場合、おとくラインSBモバイル定額適用ラインを掴むようにPBXで設定する。

■ 090、080で始まる番号をすべてSBモバイル定額適用ライン経由にすることで、ソフトバンク携帯向けの電話が1:00am-21:00pmの間すべて無料！(PBXで090/080の自動識別を設定するか、もしくは識別番号(9発信等)の設定を行う。)

■ 外回りの社員(営業Aさん)にV2S携帯を持たせることで、会社からの電話は1:00-21:00の間すべて無料!

■ 固定電話代の大幅削減可能!

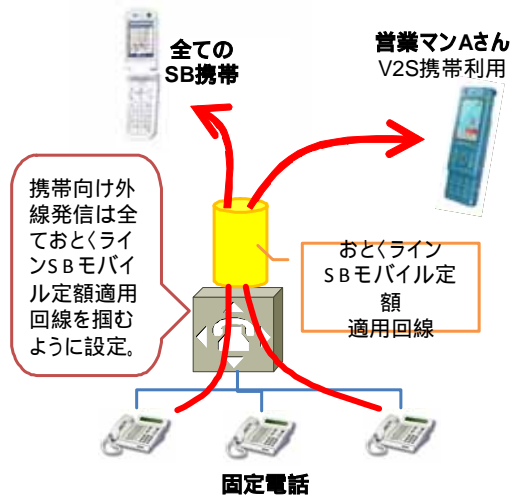


POLで会社から社員携帯に無料で通話！

会社の電話から全てのソフトバンク携帯にかける電話が無料になります！(1:00-21:00)

会社から携帯番号にかける場合、おとくラインSBモバイル定額適用ラインを掴むようにPBXで設定する。

- 090、080で始まる番号をすべてSBモバイル定額適用ライン経由にすることで、ソフトバンク携帯向けの電話が1:00am-21:00pmの間すべて無料！(PBXで090/080の自動識別を設定するか、もしくは識別番号(9発信等)の設定を行う。)
- 外回りの社員(営業Aさん)にV2S携帯を持たせることで、会社からの電話は1:00-21:00の間すべて無料!
- 固定電話代の大幅削減可能!



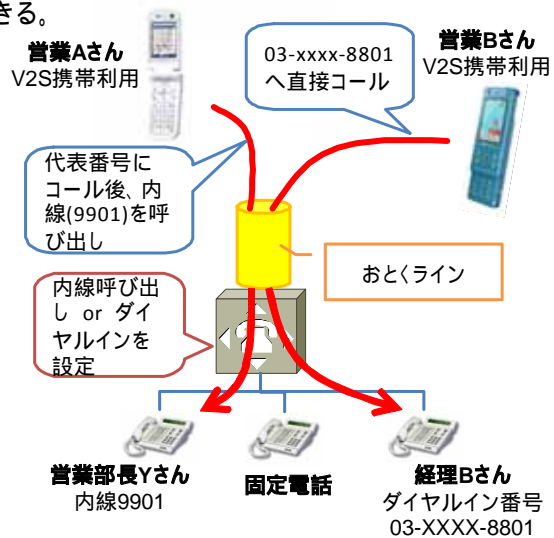
8

POLで社員携帯から会社へ無料で通話！

携帯から全てのおとくラインにかける電話が無料になります！(1:00-21:00)

社外で会社へ携帯から電話をかける場合、おとくラインの番号宛にかけることで、会社向けに無料で通話ができる。

- 営業Aさんはおとくラインの代表番号を回して、PBXの内線呼び出し機能で部長のYさんへ無料で通話。(1:00-21:00間)
- 営業Bさんはおとくライン配下のダイヤルインに電話することで経理Bさんに無料で通話(1:00-21:00間)
- 外回りの社員にV2S携帯を持たせることで、会社への通話が無料になります！
- 携帯電話代の大幅削減可能!



9

POLで社員携帯同士が無料で通話！

社員同士の携帯での通話が無料になります。(1:00-21:00)

外回りの社員同士が携帯電話で無料で通話することができる。

- 営業Aさんは営業Bさんの携帯電話(080-XXXX-4321)に1:00-21:00の間、無料で通話が可能になる。

- 他の全てのソフトバンク携帯に1:00-21:00の間、無料で通話が可能になる。

- 携帯電話代の大幅削減可能！



10

POL & PBXで固定番号で携帯を呼出し！

POLとPBXの不在転送機能の活用！

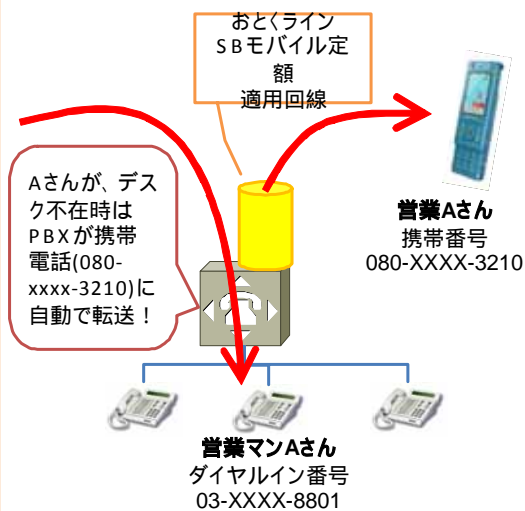
お客様からダイヤルインに掛ってきた外線電話をPBXの不在転送機能を活用して携帯電話に転送。

- 営業Aさんのお客様にはダイヤルイン番号(03-xxxx-8801)を通知するだけで、デスクにいない場合も携帯でお客様の電話を受信することが可能！
固定・携帯とも1つの番号で着信可能(One numberの実現)

- 取引様の声をよりタイムリーに聞くことが可能！

- 取次ぎを行う事務員が不要！

- おとくラインSBモバイル定額適用回線経由の転送設定で、1:00-21:00まで携帯への転送による追加の電話代は一切不要！



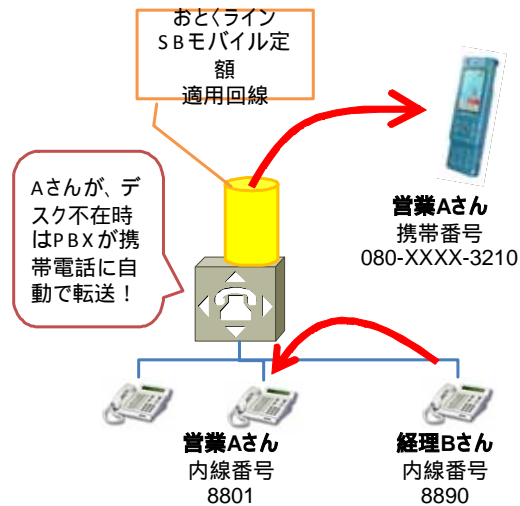
11

POL & PBXで内線番号で携帯を呼出し！

POLとPBXの不在転送機能の活用！

社内の他部署から掛ってきた内線電話をPBXの不在転送機能を 活用して携帯電話に転送。この機能で、お客様からの電話の取次ぎを携帯に行うことも可能。

- 経理Bさんは営業Aさんの内線番号に電話するだけで、デスク不在時も携帯電話に追いかける！
携帯電話番号を意識せずに相手を捕まえることを実現。
- タイムリーな社内コミュニケーションを実現！
- 取り次ぎを行う事務員が不要！
- おとくラインSBモバイル定額適用回線経由の転送設定で、1:00-21:00まで携帯への転送による追加の電話代は一切不要！



12

まとめ

以上ご説明しましたように、PBX(ビジネスフォン)の転送機能とプレミアムオフィスラインを連携させることで、携帯電話が内線電話と同じように活用することが可能になります。

このソリューションを活用して、
既存の社員携帯の入れ替え、
社員への会社携帯の導入
を図り、是非とも貴社の業務の効率化、通信コストの低減をご検討ください。

おわりに

以上、当協会のビジネスモデル研究と実践について解説いたしましたが、通信業界の新しい潮流はお客様に最も近いところで事業展開している情報通信設備業界の私どもが担っていかなければならないと自負しています。ご提案したビジネスが大きな潮流になるためには当協会会員の積極的な参画がなければ実現いたしません。

会員自らが通信事業者になりうる新しいビジネスをご理解いただくことを期待して止みません。